

知識向上・能力向上に向けた取り組み

事例 2	対象：知的障害女性（2年目）
ねらい	・職場における会話の仕方について知る
計 画	声の大きさや話すタイミング、内容について考えていこう
理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の中で大きな声で他の利用者と会話することが多く、個人情報の漏洩等に繋がることを考えられた。 ・敬語を全く使えないわけではないが、慣れてくると職場においても友だち同士の会話のような状況になり、相手に不快な思いをさせる可能性が高くなった。
経 過①	私語についての話をすると本人も理解して意識している状況が見られたが、時間の経過と共に、意識は薄らいでいく様子もあった。
振り返り	仕事上でのルール等の理解はできている様子ではあるが、その持続は難しい様子があった。また、注意されたことによる不満を他の利用者に吐露している状況があり、周囲の利用者が対応に困っている状態になった。
経 過②	声の大きさ等を意識できるように、気づいた時にはその都度声をかけるようにした。それに対して不快な思いをされないような工夫もしていった。
振り返り	本人の意識は随分向上している様子は見られるが、「自分だけ」という思いになってしまった様子が見られた。他の利用者が「自分も注意されたことあるよ」という言葉で納得はされているが、「職員が私語をしている」との意見も出ており、支援員のみでなく、その他の職員や非常勤職員等への支援内容の周知やそれに伴う職員の意識の向上を先にしなければいけないと痛感する。
課 題	今後も継続して支援していく必要がある事例であった。一般就労を目指しているため、職場のルールを守ることや本人にいかに関則を理解して対応してもらうかは、重要であると考えている。この事例だけでなく、SNSの活用等が当たり前になった時代では様々なことが想定されるため、今後もこの事例以外でも「規則の説明」等を分かりやすく行うことが必要であるとする